



## お母さん、お父さん お元気ですか

卒業して、縫製工場で一生涯懸命働いています

夢をふくらませるタヌージャさん

小さくてもいい、家族が住める家を持ちたい・・・

日本の里親さんのご好意により、里親制度の里子として、1993年に私も奨学金を頂き1999年に卒業しました。この奨学金は私の学業に大変助けになりました。まず最初に、ご援助くださった日本の里親さんとスリランカ日本教育文化センターの皆様にご心より感謝いたします。スリランカの経済的に恵まれない家庭の子供たちに教育援助をしてくださる日本の里親さん達のことは私は決して忘れることはありません。8年生のときから継続して奨学金を受け、OLテストにも合格し、その後、ALテストにも良い成績で合格することができました。ALテストを合格することは、とても大変です。しっかりと勉強できる環境が必要です。このようにALテスト受験まで十分に勉強できたのは奨学金を頂いたからです。

私の家族は3人兄弟で、父だけが職業についていました。私達は大変苦しい生活をしていましたが、1998年に父が脳血栓で亡くなりました。それからの生活は一層苦しいものとなりました。今、妹や弟はまだ学生でした。私達には自分の持ち家はありませんでしたので借家代も払わなければなりませんし、食費もばかになりません。それで仕方なく私は大学に行くのをあきらめ、織物工場に働きに出ました。それでもAレベルテスト受験まで何とか勉強できたおかげで良い就職口にも出会えました。私達はどんな境遇にあってもとにかく生きていかなければなりません。

私はこれまで勉強を頑張ってきたように仕事においても努力しようと決心しました。私は職場でも一生涯懸命努力しましたので、品質管理担当に抜擢されました。一ヶ月に三週間は夜働かなければなりません。

ん。ですから職場の労働条件はかなり厳しいものです。でも職場に近いところに住んでいますので通勤は便利です。職場の人達は皆親切で、気さくな人達ですので、その点は助かっています。上司もいい人です。

私の次の目標は小さくとも自分の家を建てることです。何とかこの希望は実現するつもりです。良い結婚もしたいのですが、そのためにはまず、経済的にしっかりした基盤を作ることが先です。そのために努力したいです。私だけでなく、スリランカの多くの若者たちにとってこうしたことは問題になっています。今は母しかいませんので、母の世話もしなければなりません。これは私達の義務です。

最後に私に援助して下さったように、同じ環境の後輩たちに援助を続けて下さっている日本のC.P.Iの里親の皆さんと、スリランカ日本教育文化センターの皆さんにご心から感謝いたします。自分の子供たちと同じように、他国の子供たちの幸せの為に援助する人達は人間の持つ良心を代表する良いお手本だと私は信じています。里親さんはじめ皆様のご健康とお幸せをお祈りいたします。

No.A131 タヌージャ・ディーパーニ・カーリヤワサ (女)

### タヌージャさんのプロフィール

彼女は、OL試験もAL試験も優秀な成績で合格しました。特に英語が得意で、彼女に会ったC.P.I.会長やSNECCの関係者は皆大学に進学するものと信じていました。

しかし、父の死、そして病気の母を抱えた彼女の環境がそれを許さずでした。その苦しい家庭環境の中で、彼女はたくましく、明るく一家を支えています。



# 何もないけれど幸せです

## クルネーガラの子ルカさんをたずねて

(寄稿) 千葉 里親 KY

クルネーガラの町はコロomboの北東、約100kmにある。14C前半に48年間だけシンハラ王国の首都があったところだ。今も大きなバスターミナルを持つ交通の要所であり、この地域の中心都市になっている。町の中心部にある市場からは毎日大量の野菜が流通しているという。

クルネーガラ・センターのセンター長はヒダワ・デワナダさんと言った。とても面倒見のよいお坊さんである。センターで初めてルカさんを紹介された時、付き添いのおばあさんは心配そうに我々を見つめていた。ルカさんは67歳になるおばあさんと二人暮らしだった。彼女は小さい頃に父親をなくし、その後、母親は再婚して家を出て行った。そんな彼女にインタビューした時である。

「今までで一番悲しかったことは何ですか？」そう言ってしまうから私は“はっ”とした。彼女に辛い過去を思い出させてしまったに違いない。私は後悔しながら彼女の返答を待った。彼女は少し考えていた。そしてゆっくりと言った。「別に悲しかったことはありません」。彼女の返答を聞いて私は少なからず動揺した。全く予期せぬ回答であったからだ。短い16年間の彼女の人生にも悲しい事が沢山あったはずだ。私はもう一度彼女に尋ねてみたい衝動にかられたが出来なかった。彼女は悲しみを忘れようと努力しているのか、あるいは本当に忘れてしまったのか、あるいは彼女に起こった様々な出来事は、そんなに悲しい事ではなかったのか、どのように理解していいのか私には分からなかったからだ。

質問の内容を変えてみた。

「今までで一番嬉しかったことは？」ルカさんは微笑みながら答えた。

「CPIの奨学生になれたことです」優等生の回答



ココヤシの林の中のルカさんの家



(愛猫のキティちゃんを抱いてにっこりするルカさん)

である。

「尊敬する人は？」

「援助してくれる日本人です」これも優等生そのものだ。

「何か困っていることはありませんか？」ルカさんは、はっきりと答えた。

「別にありません。充分足りています」。

何と言うことだろう。彼女はまっすぐ私を見てそう答えたのである。

彼女は、毎朝5時に起きて、朝ご飯の準備をする。足の不自由な祖母のかわりに、離れた所にある井戸まで水汲みに行くのも彼女の仕事だ。スリランカでは水がめで水汲みが出来ないとお嫁に行けない、と言われている。その点、彼女は、もうすっかりお嫁に行ける資格を掴んだようだ。

彼女の家は粗い土壁で屋根はココヤシの葉で葺いてあった。電気は火災の危険性があるということで、許可になっていない。数学と理科が好きだと言う彼女は我々に数枚の表彰状を見せてくれた。学校では世話好きでみんなの人気者だとセンター長のデワナダさんが言う。

彼女の机にもなる大きめの台には、何冊かの教科書とノート、何かの液体が半分ほど入ったビンや小さな紙袋などが散らかっていた。お別れをする時、おばあさんに尋ねてみた。

「どんな大人になってもらいたいですか？」「皆さんに会えたことが嬉しくて言えません」そう言って彼女はうつむいた。彼女は、我々に会えた喜びで胸がいっぱいで質問について考えることが出来ないと言っているのだろうと私は思った。

「いいお孫さんを持ってよかったですね。おばあさんも身体を大事にして下さいね」私は通訳にそう言って欲しいとお願いした。そして別れの会釈をすると、おばあさんは手を伸ばし、私の両手を抱え込むと大きく顔をゆがめた。

帰りの車の中から手を振りながら私は「幸せは金では買えない」、そんな諺があったことを思い出していた。

(KYさんからの寄稿です。CPIスリランカ・オフィス編集部)

村に帰りたい アヨーマ・ペレーラ

うれしい  
試験に合格した  
とても嬉しい、それなのに  
涙が出て止まらない  
なぜ？

村と離れるのがかなしいの？  
お母さんと離れるのがかなしいの？  
いつまた会えるの？

部屋の端っこで、ずっと泣いていた  
お母さんは私の肩に手を置いて  
「村が平和になったら帰れるよ」  
「お手紙書いてね」  
お母さんの声が泣いていた

町の親戚の家での、下宿の部屋は寂しい  
窓から遠くの田舎が見えるみたい  
お母さんが呼んでいるみたい  
お母さん、泣いていないかな

お母さんのぬくもり、お父さんのぬくもり、  
姉さんや弟の温かいところ  
みんなの励ましの声が聞こえる  
鳥のように大空にはばたきたい  
村に帰りたい

勉強頑張るよ  
一緒にご飯食べようね  
きっと、そんな幸せくるよね  
私はなにも悪いことしていないもの

No.4936 Thilini Ayoma Perera (女15歳1年生)

母

アナスタ・ヌワンレーカ

月日は過ぎ去っていく  
それと共に母の愛情は増してゆく  
だからあなたに逆らうことはできない  
悲しいときも苦しいときも  
母だけが慰めてくれる

世界の中にある  
けして変わることはない  
ただひとつの愛情が  
母の愛情

空と大地のように  
月と太陽のように  
母の名は滅びることはない  
私の心の底にある  
消えることのない愛情は  
どれだけが言う言葉もない

No.2862 アナスタ・ヌワンレーカ(卒業生、女)



## 一生忘れられない思い出 里親さんとの交流会に参加して

今年1月30日にコーツテ・スリランカ日本教育文化センターで行われた、C.P.I.里親さんの千葉グループとの交流会に招かれて、参加させてもらいました。その日は、前からとても楽しみに待っていました。私は9時に叔父と母と一緒に里親さん達に会いに行きました。そのとき私の愛する日本の里親さん達に会えるので、ドキドキしながら、首をながくして待っていました。しばらくして里親さんたちが笑顔で私の方へこられました。私たちは立って「こんにちは」と日本語で歓迎の挨拶をしました。里親さんたちも「こんにちは」と言われました。私は、日本語が通じたので、嬉しくてたまりませんでした。里親さん(お母さん)たちが私たちの胸に名札をつけてくれました。名札には私の名前と日本の里親さんの名前が書いてありました。名札をつけるときお母さんは、にこにこ笑顔で「こんにちは」といって下さいました。涙が少し出ました。



里親さん一人、ひとりの自己紹介がありました。ハルシャさんが通訳をしてシンハラ語で話してくれました。あんなに難しいことを簡単に通訳するハルシャさんに驚きました。私にはとても出来そうにないように思いました。この日集まったほとんどの学生たちに手紙や写真が渡されました。千葉地域の地図と説明が書いてある本をもらいました。カラーで印刷されたとてもきれいな本でした。ひとりの里親さん(お父さん)が地図の説明をして下さいました。日本のことや千葉のことについて、色々話して下さいました。今まで知らなかったことをたくさん勉強できて、とてもよかったです。お昼になって、里親さんたちが持ってきて下さった昼食を皆で食べました。それは、なかなか食べることの出来ない中華料理の弁当でした。母と一緒に並んで食べました。とても嬉しい食事でした。食事の前に、日本ではどのように挨拶するかを、教えてもらい

J.J. Jeewanthi



ました。それはとても良い習慣だと思います。

ご飯を食べてから、ゲームの時間がやってきました。ビンゴゲームを教えてくださいました。このゲームは私は生まれて始めてでした。ビンゴになった人は順番にプレゼントをもらいました。私はなかなかビンゴになりませんでした。お母さんのほうが先にビンゴになりました。私は夢中になって、ビンゴになる数字を祈っていました。

日本の折り紙で紙人形も作りました。みなさん、とても親切に教えて下さいました。すべて初めてのことばかりで、楽しい一日でした。

色々な手作りのものやお土産をたくさんもらって、とても嬉しかったです。それを大切にもって帰りました。そのお土産は愛する日本の里親さんとの記念として、大切に飾ってあります。

その日のことは、一生忘れられない思い出になりました。私は、そのとき里親さんたちを見ていて、皆さんが仲良く、上手に教えて下さったことを印象深く残っています。



私たちのために、教育援助をして下さったり、遠い日本からこうして会いに来てくださる里親さんたちの顔をみたら、私たちをどんなに愛してくださっているか、よくわかりました。あっという間に時間が経ち、交流会も終わりに近づきました。日本の歌の歌詞をもらって、テープを流して、踊りながら日本の歌を歌いました。皆で笑いながら楽しく歌いました。写真もたくさんとってもらいました。後で送っていただいた写真には皆の笑顔がたくさん写っていました。里親さんもみんな笑顔で、心の美しい方々だと感じました。私の人生は明るく灯して下さいましたその日のことを、忘れず将来に生かして、これからも頑張ります。ありがとうございました。

(マトウガマ・センター)No.4580(J.J. Jeewanthi)

## 香りゆたかなセイロンティ



スリランカの主要産物に、紅茶があります。もともと、お茶は中国から始まったそうです。中国の伝説によると、茶の木は紀元前 2737 年に炎帝神農が木陰で湯を飲むためにひと休みをしていたところ、風に吹かれた数枚の木の葉が偶然にも湯の中に入ってしまい、それが“お茶”の発見につながったということです。スリランカでの生産の歴史はとても新しいのです。スリランカは元来コーヒーの産地でした。しかし、コーヒー樹を枯らす害虫の大発生によりコーヒー園は全滅(1870年代)してしまいました。その跡地に茶の木が植えられ、今日の大紅茶園に発展して来ました。

我が国の農産物で紅茶は米に次いで第 2 位です。今では、焙煎工場もたくさん建てられ、紅茶畑も約 180,000ha の土地で 31 万トンが生産されるようになり、紅茶産業は発展しています。紅茶の輸出によって、茶摘み、消毒、運搬、工場内での作業等、紅茶にたずさわる人がたくさん働くようになりました。



紅茶の主な栽培地域は、カルタラ、ゴール、マータラなどの西南部地方(ルフナ)とケーガッラ、キャンディー、マータレーなどの中部地方、そしてヌワラエリヤ、バドゥッラなどの山間地方です。生産地によって紅茶の香りが違うので、その特色を楽しむことが出来ます。

1997 年には 27 万トン輸出して 430 億ルピーを得ま

した。スリランカの紅茶は“セイロン・ティ”の名で世界的に知られ、有名な紅茶の産地になっています。スリランカの紅茶はインドに次いで 2 位であり、外国からの注文が多いので、年々生産を増やしています。

包装は工場では伝統的な木箱詰めから、ビニール、アルミ、紙、布などで、箱詰めや袋詰めをしています。学歴、技術を問われないので、タミール人、スリランカ人の人たちは一緒に仕事をしています。

昔、イギリス人が、植民地時代にはじめた紅茶の栽培は、広域に広がり、お茶を運ぶ為に道路を整備し、汽車を走らせ、銀行も建ちました。紅茶産業は、スリランカ経済を発展させる重要な産業になっています。

バドゥッラ・センターNo.4676(J.M. Thusitha Dilrukshi)

(注) 1 ルピー=1.1~1.2 円

### 産地によって茶葉のグレードと香りが変わります

#### ● ハイグロウン・ティ(高地茶)

標高 1200m以上の高地で栽培される紅茶で最高級品とされている；ウヴァ、ヌワラエリヤ、ディンブラが代表産地

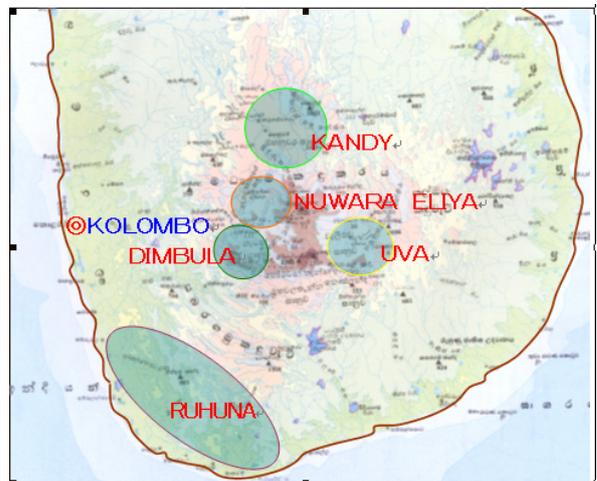
#### ● ミディウムグロウン・ティ(中高地茶)

標高 600~1200mで栽培される紅茶でキャンディー地域が代表産地

#### ● ローグロウン・ティ(低地茶)

標高 600m以下で栽培される紅茶。南部(ルフナ地区)の熱帯雨林の点在する茶園で栽培される。

独特のスモーキーフレーバーが特長。中近東に人気の高い



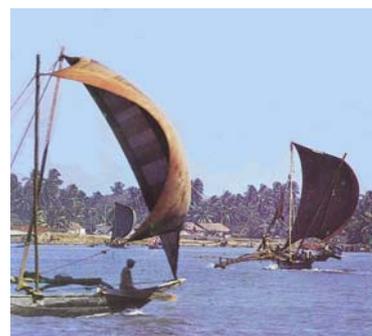
紅茶の産地 (スリランカ中南部)

## スリランカで最も大きな漁港 ネゴンボの漁業の悩み

クリシャンテ・ルピカ(13年生)

スリランカはインド洋に囲まれた小さい島です。国民の生計は主に農業と漁業によって支えられています。海に囲まれているこの国は漁業の最適な条件に恵まれています。海は貴重な天然資源であり、スリランカにとって宝物と言えます。

その中でも西海岸から、南海岸にかけては最も漁業が盛んな地域です。スリランカで一番有名な漁村はネゴンボです。ネゴンボの漁業は2種類あります。海水魚と淡水魚に分かれますが、海水魚の方が盛んです。漁師は普通のボートと帆船などを使って漁を行います。打ち網をして生活と生計を立てている人もいます。また仲間を組んでボートや帆船で沖へ出て漁をする人もいます。少し手広く仕事をする人は、大型船で何週間も沖へ出かけて漁をします。生で売ったり、乾物にして収入を得ます。



漁師たちは海岸で仲買達とセリ市をして値段を決めます。これは毎朝海岸に行くと見られる風景です。とても活気に満ちています。セリ市では種類別にした魚を売り手と買い手で相談して値段を決め、ここから小売屋へ売る人もいれば、個人で商売する人もいます。

ネゴンボの入江は良い条件に恵まれた漁場です。入江に茂る熱帯樹林もみごとで、美しい姿が見られます。又、そこでは海老、カニ、魚がたくさんとれます。ここからとれる海老は外国にも輸出されています。きっと日本にもたくさん輸出されていると思います。

ネゴンボの入江はとても美しく、歴史的にも古い漁場でいい史跡も残されています。漁師達の文化、習慣、生活、言葉など、今でも昔のまま伝えられています。ネゴンボは海に近いので、漁を済ませてからセリ場まで、時間がかかりません。だから新鮮な魚を売ることができます。しかし、昔から大変貧しく、それは今も変わりません。多くの漁師達は粗末な小屋に住んでいて自分の土地や財産は持っていません。それがネゴンボの現状です。漁師達は海の上で何週間も漁をします。魚は一年中毎日とれます。しかし漁師は多くの問題を抱えています。

1. 漁に必要な船を含む道具(例えば網とか)が値上がりしている。
2. 魚の値段が安定しない。
3. 消費者までの流通ルートに値段がかかりすぎる。
4. 仲買と小売が儲けをひとり占めをしている。
5. 魚を保存するための設備(冷蔵室、冷凍室など)がない。
6. 外国の漁師と会社が領域に侵入してくる。
7. 沖で漁しているとき、外国からの侵入者が船をまるごと拉致して漁師を監禁する事件が起きている。



河川や環境の汚染を訴える子どもの絵

以上のような理由で、漁師は苦しい生活状態が続いています。さらに、この入江には最近次のような問題がおきています。

1. この入江にゴミ、汚水、毒物などの汚染が著しく、そのため漁獲の量が低下している。
2. 許可なく、入江の周りの池や海を埋め立てて、自然をかえてしまう。
3. 熱帯樹林が破壊されている。
4. 手荒い漁をする人々によって漁場が荒らされる。

このような問題によって入江は急速に破壊されつつあります。これはとても残念なことです。漁業に政府が責任をもって解決にあたってもらいたいし、ネゴンボの人々も入江を保存するために、努力しなければなりません。それは、スリランカの財産だからです。政府だけではなく、皆で守って行かなければならないと思います。

(ネゴンボ・センター No.4153 (Krishanthi Rupika 18歳 13年生、女))

## 里子たちの学校生活

コロomboの近郊の里子たち 22 名のアンケートの結果です。子どもたちの生活を覗いて見てください。

スリランカでは、全員が学校生活を楽しんでおり、学習意欲も高い。知的な刺激に飢えているのかも知れない。日本語習得への意欲も高いが、地方では学べる施設が乏しい。家庭学習も平均 3 時間はしているようだ。

### ★学校への期待・学習意欲・将来の夢など★

- Q:学校は楽しいか?      ○楽しい    100%  
 Q:勉強は好きか?        ○好き     100%  
 Q:日本語を勉強したいか? ○したい   93%

#### 【好きな教科】(多い順)

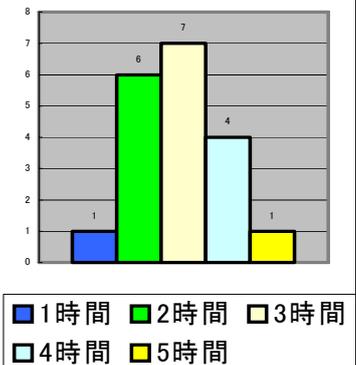
数学、科学、英語、シンハラ語、体育、会計、  
 経済、仏教、ダンス、政治

日本とは逆で、数学、科学、英語をあげる子が多い。

#### 【将来、なりたい職業】

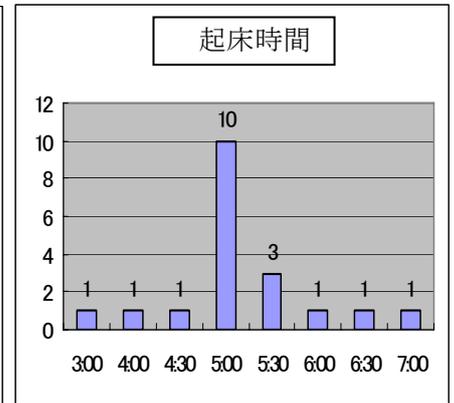
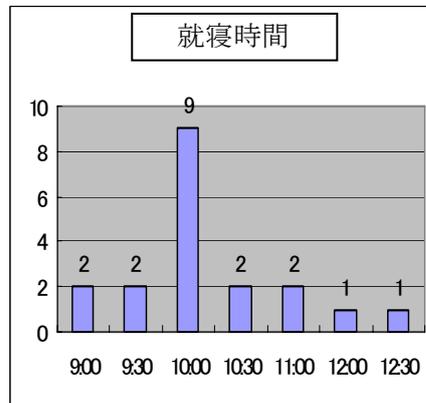
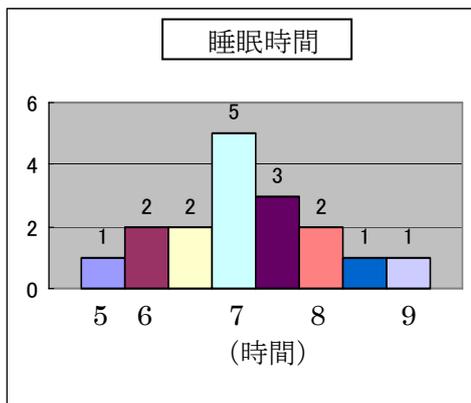
- 1.先生      (7人)    教えるのが好きだから
- 2.医者      (7人)    他の人を助けられるから
- 3.銀行員    (4人)    両親を助きたいから
- 4.エンジニア (2人)    職業としてよい仕事だから
- 5.マネジャー (1人)    //

自宅での勉強時間



### ★生活全般★

スリランカの子どもたちは、起床時刻は早く、就寝時刻は 10 時頃が多い。遅くまで起きている子は勉強しているようだ。TVの入っている家庭が増えてきている。



#### 【帰宅してから就寝までの過ごし方】

勉強、友達と遊ぶ (ネットボール、クリケット、バレーボール、バドミントン)、TVを見る

#### 【尊敬する人たち】(多い順)

両親、先生、目上の人、姉、叔父、僧、里親

どうも感謝することと、尊敬することとは違うようです。

#### 【日本の印象】

美しい国、美しい心を持った人が多い、努力してよくなった国、親切な人が多い、賢い人が多い

(このアンケートは 1/30 千葉グループの里子交流会で鈴木さんが取られ、集約されたものから抜粋して掲載させていただきました。      こんにちは新聞編集委員会)



このように教育支援をしています

みなさまの温かい支援によって、多くの子どもたちが学校に通っています。

SNECC は、みなさんの里子たちの成長に責任をもった援助活動をしています。



**どうしても、申し上げたいことがあります。里子にお金や高価なものを贈らないでください。**

里親の皆さんが里子たちのことを愛する気持ち、援助しようという思いを私達はよく理解しております。時々、里親さん達がスリランカにいらっしゃったときや、あるいは日本から直接、特別に贈り物をされることがあります。これは里子への深い愛情、生活状態を察しての親切心からしておられることは間違いありません。ただし、こうした特別な贈り物はよい結果を生むこともあればその反対もあります。

里子への贈り物が原因で、里子が勉強を続けなくなったり、私達はすべての里子を平等に扱っているのですが、そのコントロールが取れないようになったり、里子と里親さんの仲がこじれてしまったり、といったことがこれまでもありました。

ですから里子の為になにか特別な贈り物や援助をしたいと思われるときには、事前に C.P.I.を通してスリランカ日本教育センターの私達にご相談ください。そうすれば、その援助はすべきかどうか、またどのような形ですればよいかということのアドバイスを致します。どうぞ宜しくお願いいたします。

事務局長 M・チャンダシリ

### 奨学生の認定

来年 9 年生になる新奨学生の調査を 9 月から開始します。10 月には各地区センターを回り、里子との面接を行って、来年度の奨学生の継続について調査を行い、C.P.I.本部との調整を行います。

12 月に最終選考を行い、新 9 年生の選考と継続奨学生の決定が行われます。

### 奨学品の授与

12 月末から 1 月にかけて奨学生の認証式と奨学品の第一次配布が行われます。

### 厳しい就学報告ノート

奨学生は①就学状況と試験の結果などを報告すると同時に②「地区センターから受領した金額」の明細をコーッテ・センターに連絡することが義務付けられています。成績は校長先生の証明が必要です。センター長の評価も記入されて、コーッテ・センターに報告されます。



年度始めに支給される学用品の数々

### 年に一度支給される学用品

学生服 (服地)	2 着
普段着 (服地)	1 着
学生カバン	1 個
傘	1 個
ノート	24—30 冊
ファイル	3 個
世界地図	1 冊 (初年度のみ)
製図用道具	1 式 (初年度のみ)
色鉛筆	1 式 (初年度のみ)
スリランカ白地図	10 枚 (9~11 年生)
世界白地図	10 枚 (9~11 年生)
その他 (消しゴム、ハチ、鉛筆など)	

### お金で支給されること

里子たちには、地区センター長から支援される現金は下記の通りです。

1. 教育援助費:100~400Rs/月
2. 日本語クラス授業料:100Rs/月
3. 学生服仕立て代 (男子 250-400、女子 200Rs/年)
4. 靴代 : 400Rs/年
5. 修学旅行費:400~500Rs/年
6. 写真代: 75Rs/年
7. 医療費:重病の人だけに支給。  
手術の場合 5000Rs

教科書は、国から支給されますが、終了時に返却しなければなりません。子どもたちは、後輩のために汚さないように大切に使います。大事なことは、記憶するか、ノートに書き写しておかなくてはなりません。子どもたちのノートは、きれいに整理されて書かれています。